

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

可児市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・可児市教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育の結果を把握し、その改善を図る。
- ＊本調査の結果は児童生徒の学力の特定の一部を示すものであり、この結果のみで児童生徒の学力の全体を判断できるものではありません。

(2) 対象学校・児童生徒

可児市内全公立学校 【11小学校（6年生） 5中学校（3年生）】

(3) 調査内容

教科に関する調査（国語、算数/数学、生活習慣や学習環境に関する質問紙調査）

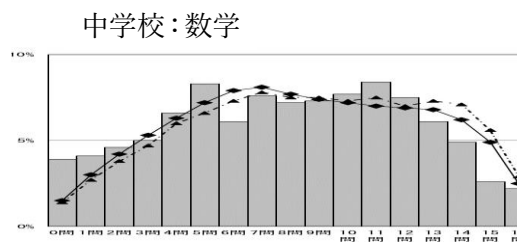
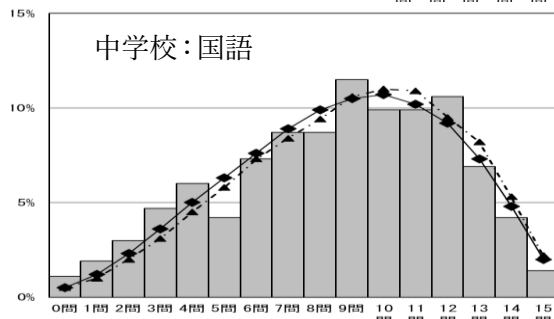
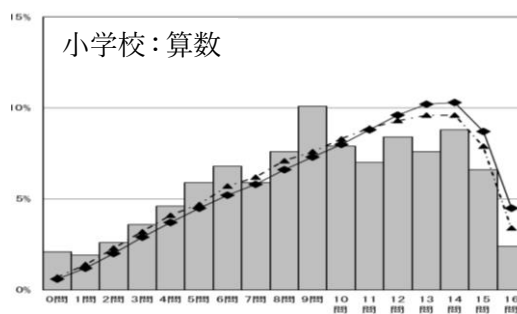
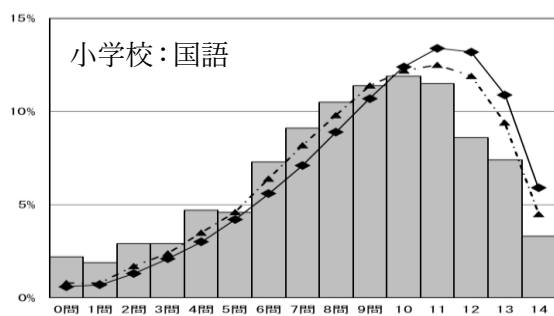
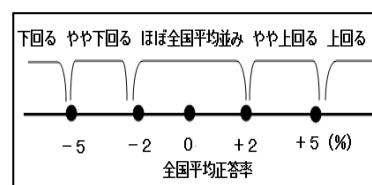
(4) 調査日 令和6年4月18日（木）

2 可児市における調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果

- ・小学校は、国語・算数とも全国平均を下回った。
- ・中学校は、国語はほぼ全国平均並みで、数学は下回った。

○正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



可児市
岐阜県
全国

- ・小学校の国語・算数及び中学校の数学は正答数が少ない児童の割合が高く、正答数の多い児童の割合が低い。
- ・中学校の国語は、正答数の割合は、全国とほぼ同じである。

○各教科の結果概要からみた成果・課題

- [小国]「我が国の言語文化に関する事項」「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関わる設問に対する正答率の全国比が低い。
- [小算]「数と計算」「変化と関係」に関わる設問に対する正答率の全国比が低い、全体では昨年全国比より上がった。
- [中国] 全体の正答率は昨年よりも全国比が若干上がった。特に、3問ある記述式の問題のうち2問が全国比以上であった。
- [中算]「数と式」「データの活用」に関わる設問に対する正答率の全国比が低い。

○課題となる特徴的な設問

- [小国]「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」（言葉の特徴や使い方に関する事項：知識・技能）
「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる」（言葉の特徴や使い方に関する事項：知識・技能）
- [小算]「速さの意味を理解しているかどうかをみる」（変化と関係：知識・技能）
「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述

できるかどうかをみる」(数と計算：思考・判断・表現)

[中数]「等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる」(数と式：知識・技能)

<課題解決への手立て>

□基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得

小中学校とも国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する設問で、漢字を正しく使う知識・技能の習得に弱さがみられました。また、小学校では、やや長い一文の中における主語と述語との関係を捉える知識・技能の弱さもみられました。日常的に学年に配当させている漢字を文や文章の中で使う習慣を身に付けるようにすることや主語が何かと意識して文章を読んだり書いたりする機会を多くし、基礎的・基本的な知識及び技能の定着をさらに図ります。

小学校の算数では、「変化と関係」に関する設問で、速さの意味の理解に課題がみられました。速さはそれまでに学習してきている長さや重さなどの量と異なり、道のりと時間の二つの量の割合で表す量であるため、その意味を十分理解することが子どもにとって難しいと考えます。速さなどを求める公式を覚えて終わりではなく、異種の二つの量の関係に着目し、問題場面や図、式を関連付けて、求めた数量が妥当かどうかを考える場面を大切にするような授業改善を図ります。

(2) 児童生徒質問紙に関する調査の分析の概要

各質問項目に対する回答の割合は、ほとんど全国平均並みでした。その中で、多くの児童生徒が(回答1：当てはまる 2：どちらかといえば当てはまる)と回答した項目と全国平均より特に低かった項目について、以下に示します。数値：1+2の割合(全国比)[昨年比]

質問内容	小学校	中学校
朝食を毎日食べていますか。	94.2 (+0.5) [-0.3]	90.6 (-0.6) [-2.1]
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	90.6 (-1.0) [-1.8]	93.4 (+0.9) [+0.8]
先生は、あなたのいいところを認めてくれていると思いますか。	90.8 (+0.9) [-1.1]	92.8 (+2.4) [+0.3]
人が困っているときは、進んで助けていますか。	94.4 (+1.9) [+0.6]	91.5 (+1.4) [-2.1]
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。	96.8 (+0.1) [+0.1]	96.4 (+0.7) [+0.5]
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	92.3 (-3.6) [-2.1]	94.0 (-1.2) [-2.3]
友達関係に満足していますか。	92.9 (+1.8) [-0.1]	91.2 (+1.1) [-1.4]
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがどれくらいありますか。 (1：よくある 2：ときどきある)	91.2 (-0.5) [+0.2]	90.5 (+0.7) [+0.7]
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。	92.8 (+1.2) [R5 質問無]	91.2 (-1.1) [R5 質問無]
5年生までに(1・2年生に)受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。 (1：毎日 2：週3回)	42.9 (-16.6) [-6.9]	49.4 (-15.0) [+7.8]

朝食を食べ、同じくらいの時刻に起きていると回答している児童生徒が90%を超えており、規則正しい生活習慣を身に付けている児童生徒が多いことがわかります。

調査結果から、児童生徒とも、仲間関係や普段の生活に対する満足感の高さがうかがえます。各学校で「笑顔の“もと”」を育む取り組みや対人スキルトレーニング「笑顔の“もと”」プログラムの実践、また、アーラと連携した演劇的手法を取り入れたココロとカラダのワークショップなどで人間関係を築いたり、自己肯定感や自己有用感を高めたりするための取り組みが実を結んでいると考えられます。これからも日常観察や面談、WEBQUの結果等から子どもへの理解を深め、児童生徒が自己肯定感や自己有用感を育んでいける学校生活を目指していきます。

小中学校とも児童生徒質問紙のPC・タブレット活用に関する項目(回答1：ほぼ毎日)(回答2：週3回以上)で、全国比を下回っています。昨年度の本調査の質問紙の結果から、ICTの活用に授業改善の余地があると考え、今年度の学校所員会では、協働的な学びの場面でのICTの活用について各校に広めていくことを目指して、授業実践を進めています。

3 全国学力・学習状況調査の活用について

- ・本調査において、正答率が低い問題については、市全体で課題を共有し、全職員の共通理解をもとにして、日々の授業改善に取り組みます。
- ・各小中学校においては、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業改善として、ICTを活用していく授業を通して、仲間との協働的な学びや個別最適な学びを目指していきます。その様な学びを通して、児童生徒が問題発見・解決能力を身に付け、基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、自分の考えや思いを豊かにし、それを自分なりに表現できることをねらいます。そして、児童生徒の未来の笑顔につなげるようにしていきます。